

古民家再生、複合店舗に

仏料理店など7店

越谷「はかり屋」



古民家を再生し、飲食店など7店舗が入った複合商業施設「はかり屋」

越谷市の旧日光街道沿いの古民家がこのほど、複合商業施設「はかり屋」としてオープンした。明治期の建物を購入した、同市内の住宅メーカーが商店街活性化

化を目指して企画し、市内の若手経営者らでつくる一般社団法人「越谷テロワール」(畔上順平代表理事)が管理・運営にあたる。レトロな屋敷内には、フランス料理や野菜の直売、イベント・ギャラリースペースなど7店舗が並ぶ。住宅メーカー中心の古民家再生は全国的にも珍しく、各自治体からの視察が相次いでいる。「登録有形文化財」として国に申請中で、地域活性化の新たな取り組みとして注目されている。

国登録有形文化財に申請

同市越ヶ谷本町にある古民家は、計量器などの商いをしていた旧大野邸で、1905(明治38)年の建築。商売柄、「秤屋(はかりや)」と呼ばれた。敷地は約610平方メートル。街道に面した間口は約10メートル。奥行き約50メートルの敷地に平屋の屋敷や2階建ての土蔵が渡り廊下でつながる町屋造り。石畳の通路と、しだれ桜のある中庭もある。

敷地、家屋とも、同市内の住宅メーカー「ポラスグループ」の「中央住宅」が2015年に購入。同社は「蔵のある街づくりプロジェクト」を掲げ、古民家の部材やデザインを生かした住宅分譲に取り組み、昨年、「はかり屋」近くの土蔵「油長内蔵(あぶらちよううち

ぐら)」をリフォームして街道脇に移築し、「街づくりの拠点」として同市に寄贈した。

今回も「歴史ある建物を残して、地元文化に貢献しよう」(中央住宅)と耐震改修し、店舗として賃貸することになった。管理・運営は地元若手経営者らでつくる「越谷テロワール」が担う。「テロワール」は「土地」を意味するフランス語「テラ」から派生した言葉。商業施設の延べ床面積は約300平方メートル。16畳の座敷がフレンチレストラン、土蔵の1、2階は、フランスのバイ「キッシュ」の販売・カフェのほか、マッサージ店や西洋植栽店、日替わりで楽器教室や絵本の展示販売などを行うギャラリー。土間と茶の間は「仕事創造ファクトリー」とし、紙芝居や小道具市などイベント会場に使用される。

同施設を訪れた同市谷中町の主婦、豊田望さん(33)は「縁側もあり、古風でおしゃれな施設。越谷にこんないいところがあったのだと驚いている」と笑顔で話していた。

ギャラリーでは、市内の音楽家、成田美智恵さん(36)が「だがっきのへや」を毎週木曜日に開催し、木琴などの楽器に触れることができ、有料でレッスンも受けられる。

「越谷テロワール」の畔上代表理事(42)は「古民

家再生は民間レベルでもできることが分かった。「越谷モデル」としてPRしていきたい。登録有形文化財へ登録されれば、旧日光街道の活性化にもつながる」と期待している。

次回発行は8月14日

△問い合わせ▽「はかり屋」ホームページ <https://hakari-ya.jp>